



分布

動態

提供価値

商用化済

- 24時間365日作成可能な人口統計データもとに、最適な施策の検討や効果検証が可能
- 国内最大級のサンプル数を誇る信頼性により、適切な定量データで分析ができる
- これまで把握できなかったインバウンドの移動傾向を分析可能
- 継続的なデータの収集分析によりPDCAサイクルの確立

概要

- ドコモの携帯電話ネットワークのしくみを使用して作成される人口の統計情報
- サンプル数は、国内最大級
国内居住者：約7,800万台※1、訪日外国人：約900万台※2
- 日本全国、1時間ごとの人口を、24時間365日把握可能
- 「性別」「年代」「居住エリア」「国・地域」などの切り口から分析可能
- 日本全国500mメッシュ(特定エリアで最小125mメッシュ)で提供可能
- エリアの特徴(分布)や人々の動き(移動)を時間帯ごと(推移)に継続して把握できるのが最大の特徴



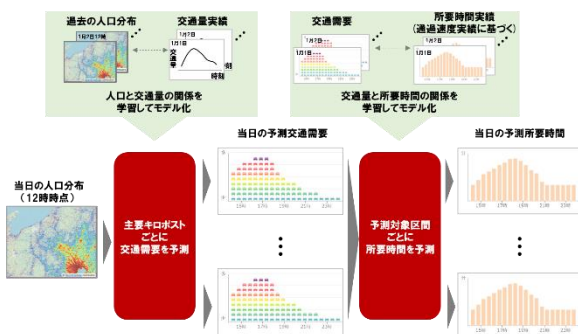
モバイル空間統計®

※1 2019年3月現在、本台数より法人名義やMVNOを除く

※2 2018年の年間実績

「AI渋滞予知」技術の概要

当日の人口分布から午後の時間帯別の交通需要を予測し、交通需要から所要時間を予測



精度評価結果(関越自動車道)

1日の最大誤差の分布

1日の最大誤差	AI渋滞予知	従来予測	改善率
50分以上	0.1%	2.9%	96%
30分以上	1.9%	11%	83%
10分以上	16%	45%	65%

※沼田IC～練馬IC間を法定速度で走行した場合の所要時間:約79分
 ※従来予測:NEXCO東日本社が提供する渋滞予報カレンダー
 ※評価対象:2015年4月15日(水)～2019年5月31日(金)
 (事故や規制の発生日を除く)
 ※改善率:(従来予測の誤差の日数 - AI渋滞予知の誤差の日数) / 従来予測の誤差日数

提供価値

実証実験/PoC段階

- 当日の人出にもとづく、当日午後の30分ごとの所要時間と交通需要の予測結果をお昼時点で提供し、帰宅時間や立ち寄り先、乗降ICの変更などの行動計画を支援します。

概要

- 行楽地等への人出の多さが「帰りの渋滞」の発生有無や規模に影響をあたえることに着目し、「当日の人出」にもとづいて高い精度で渋滞を予知する技術です。
- 携帯電話ネットワークから得られる当日昼の人口分布にもとづいて当日午後の時間帯別の交通需要を予測し、交通需要から所要時間を予測します。
- 当日午後の30分ごとの予測結果を提供します。
- 渋滞の発生前に予測結果を配信することにより交通分散が促され、
 ①利用者満足度の向上、②渋滞緩和、③周辺地域経済の活性化などの効果が期待されます。

実証実験の狙い

サイバー・フィジカル融合による社会課題解決

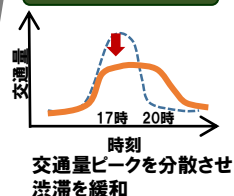
- 当日午後の30分ごとの所要時間、交通需要の予測結果をドライバーに配信
- 帰宅時刻の変更(時間分散)や立ち寄り先・乗降ICの変更(地理分散)などによる交通分散を促進

①利用者満足度の向上



渋滞ピークを避け快適に走行できることで、ドライバーの満足度、リピート率が向上

②渋滞緩和



③周辺地域経済の活性化



コラボレーションパートナー

あなたに、ベスト・ウェイ。

東日本高速道路株式会社と共同で、CA 東京湾アクアライン、E17 関越自動車道において、実証実験を実施中。



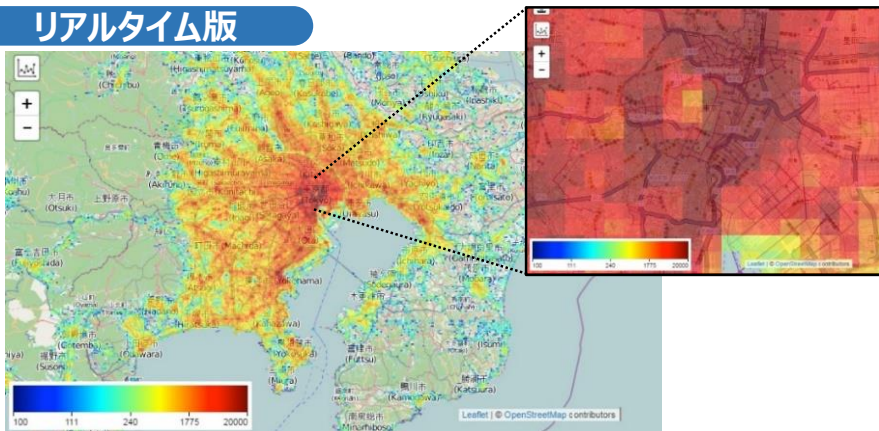
8 働きがいの経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを

リアルタイム版 国内人口分布統計

リアルタイム版

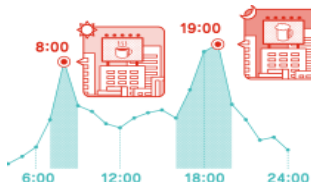


活用事例

混雑緩和



屋外デジタル広告



事故・災害等の 人的リソース最適化



AIとの組み合わせ



提供価値

商用化済

- リアルタイムな人口統計情報の提供が可能であり、即座にそのタイミングにあった最適な対応が可能
- エリアや時間帯ごとに最適な屋外デジタル広告(DOOH)の提供
- AIと組み合わせることで、需要予測をはじめとした様々なソリューションの提供が可能
 - 来店者需要予測によるフードロス・人手不足問題の解決、
 - 渋滞予測による渋滞緩和など社会課題の解決に貢献する

概要

- 1時間前の国内人口分布統計を10分単位で把握できる
- AIと組み合わせ、未来の人口の予測や、需要予測が可能
 - 未来人口の予測:近未来人数予測
 - 渋滞の予測:AI渋滞予知
 - 来場者の予測:イベント需要予測
 - タクシーの需要予測:AIタクシー
 - 投資情報サービス:aiQ
 - 土地の価値変動予測:トチカチ

モバイル空間統計®

8 働きがいの
経済成長も

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう

11 住み続けられる
まちづくりを